

別府鉄道 探訪

なぜ、別府鉄道が必要だったのかは先月号でお話ししましたが、今回は当時の交通事情をもう少し詳しく説明します。

別府鉄道が開通したころの日本は、にわかに鉄道の建設ブームが起ころっており、主な交通手段としては馬車や人力車の他はもっぱら鉄道でした。自動車がこのように一家に1台と言われ普及し始めるのは、第2次大戦後しばらくしてからで、それまではアスファルト舗装はもちろん道路整備もなされてはいませんでした。

そんな中、別府港から全国へ大量の製品を出荷しようとした場合、鉄道以外には船を利用した水運が考えられます。しかし、戦争の影響により船賃が高騰したこと、荷物を積み替える手間や荷傷みのことを考えると、製品を貨車に載せ、連絡する駅で貨車の入れ替え作業を行う手間のみで製品を運ぶことのできる鉄道の方が、経費も安くはるかに利便性があります。

土山駅ができたのは、山陽鉄道（現JR）が明治21年に明石―姫路間を開通させたときで、それ以降、明治時代の終わりまでには、神戸から下関までの鉄道路線が開通していました。神戸以东についても、明治22年には東京―神戸間が開通しており、別府港から日本全国へ製品を出荷する手段としての、別府鉄道の誕生が切望されたのもうなずけます。

写真は別府鉄道の開通を記念して、全ての取引先業者へ送られた絵はがきで、これほど開通が心待ちにされていたかを知る大切な資料です。



▲開通を記念して作られた絵はがき

鉄道まめ知識

【古代駅】

別府鉄道が町内を走っていたころ、大中遺跡の前に古代駅を作ろうという計画が持ち上がりました。結局、この計画は実現しませんでした。それは、発掘すると今もなお古代の遺物が出土し続けている通り、「ここを掘っても何かが出てくる」ために、遺跡周辺の土地開発は難しかったようです。

*このコーナーでは皆さまからの「別府鉄道の思い出」を募集しています。（郷土資料館）



きんぎょ 光ってる イ・仲間たち

このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介します。自薦・他薦は問いません。企画調整課

T. C. Harima 鉄馬友の会

古河 尚彦さん

結成のきっかけは？

6年前に横浜から実家のある播磨町に戻り、ツーリングクラブへ入会しようかと考えたのですが、自分で作った方が楽しそうな気がして作りました。

グループのメンバー構成は？

下は20歳代から上は50歳過ぎまでの男女、約50人ほどが在籍。仕事も様々ですが、バイク好きという接点だけで集まった仲間の集団です。



▲行き先は風の吹くまま、気の向くままに

活動の内容は？

3月から10月までの毎月第3日曜日に、日帰りツーリングや6月ごろのパベキュー大会、忘・新年会、その他イベントをいろいろ企画しています。

グループのモットーは？

みんなで楽しく安全に!!!

ユニークなエピソードがあれば教えてください。

ユニークなエピソードは数知れず、来て体験して笑って帰ってください。結成から6年が過ぎ、その間大きな事故も無く（後で笑えるようなトラブルはありましたが）やってきました。今度は参加したあなたが、ユニークなエピソードを作ってください。



▲飲んで食べて、ミーティング

町の人口 4月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,294人(-37人) 男...16,768人(-18人) 世帯数...12,728(+12)
女...17,526人(-19人)

